

2020年度第3回SPring-8ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2021年2月1日(月) 10時00分～11時10分

場所：WebTV会議

出席者：木村昭夫 (SPRUC 会長)、足立伸一、雨宮健太、内海渉、岡島敏浩、尾嶋正治、北川進、北村祐二、黒岡和巳、坂田修身、鈴木孝尚、高田昌樹、田中義人、宮川篤、水木純一郎、林和志、朝倉清高、片山芳則、北川宏、久米卓志、十倉好紀、中川敦史、西原克浩、濱松浩、原田慈久、三田一樹 (以上、評議員) 本間穂高、横谷尚睦、西堀英治、大和田謙二、竹中幹人、三村功次郎、久保田佳基、松村大樹、藤原秀紀、松下智裕 (以上、幹事) 坂川琢磨 (SPRUC 事務局) 山口章、櫻井吉晴、木下豊彦、岡田行彦、伊藤博幸 (以上、オブザーバー)

- 1) 議事に先立って木村会長より挨拶があった。松下幹事より参考資料に基づいて2020年度 SPRUC 評議員および SPRUC 組織が示された。加えて、前回議事録 (資料 1) の確認があり、評議員等から質問等はなかった。

審議事項

- 1) 松村選挙管理委員長より資料 2 に基づいて第 10 回評議員選挙結果に関する報告が行われた。上位 10 位内の投票を獲得した足立候補は前回の評議員選挙で選出されており、今回選挙の対象者としなかったが、機関代表者の推薦を受け、確認されないまま候補者として選挙が実施されたことが報告された。また、学術候補の 10 位が同数であったため、細則に則り評議員会で決定する旨報告された。
 - ・ 松村委員長より今回の選挙で生じた問題点について詳細な説明があった。また、SPRUC 会則、細則に基づき、以下の対応案が示され、了承された。
 - ✓ 学術研究候補者の得票数上位 10 名 (足立伸一氏を含む) を新年度からの任期 2 年の評議員とする
 - ✓ 非改選評議員 (2020-2021 年度任期) が 1 名減ったものと見做し、新年度からの残り任期 1 年の欠員補充を行う
 - ・ 質疑応答の後、学術研究候補者の得票数 10 番目に同数で並んだ 2 名については、投票の匿名性が必要であるとの観点から、別途、メールベースでの投票が行われることとなった。また、欠員候補の決め方として決を採った結果、「今年度第 10 回の評議員選挙 (学術) の候補者であり、上記の選にもれた候補者を含め、得票の多かった順に就任を打診する」ことになった。
 - ・ JASRI 山口常務理事より本選挙で生じた問題について謝罪があり、今後の選挙で同様な問題が起こらないよう対策を講じるとの説明があった。
- 2) 木村会長より資料 3 に基づいて「第 3 回 BLs アップグレード検討 WS」の開催日程 (3 月 5 日(金)、6 日(土) の 2 日間、オンライン) や開催趣旨、プログラムに関する説明があった。評議員からの質問等はなく、本件は了承された。

- 3) 松下幹事より資料 4 に基づいて「SPring-8 ユーザー協同体 2020 年度特別総会」の開催に関する説明が行われた。新型コロナ禍の影響により、例年と異なり BLs ワークショップ直後の開催となる。評議員からの質問等はなく、本件は了承された。

報告事項

- 1) 西堀行事幹事より資料 5 に基づいて SPring-8 シンポジウム 2020 (2020 年 9 月 18 日 (金) オンライン開催) の開催報告があった。
 - ・今回はアップグレード等の話題ではなく「ポスト・コロナ時代の SPring-8 利用」として自動測定やリモート測定に関する紹介や、今後の計測のあり方に関する議論が行われたとの説明があった。
- 2) 大和田行事幹事より 2020 年 12 月 20 日(日)~23 日(水) に現地開催された第 4 回 SPring-8 秋の学校の開催報告があった (資料 6)。
 - ・秋の学校は基礎講義とグループ講習から構成され、このうちグループ講習は蜜を避ける観点から 20 課題を用意 (例年は 10 課題) し、1 課題当たり 2, 3 名で実施した。
 - ・企業利用相談会を設けたが、企業参加者が少ないことが影響し相談はなかった。
 - ・参加者は 47 名 (うち社会人 9 名) とほぼ例年通りの参加人数であった。
 - ・参加申込数は 60 件であり、過去最高の申込件数である昨年度の 64 件に匹敵している。現在のような状況であってもニーズは十分にある。
- 3) 久保田会計幹事より資料 7-8 に基づき 2020 年度 SPRUC 全体会計報告があり、第 2 回評議員会で承認された修正予算案を基に執行状況等が報告された。
 - ・SPring-8 シンポジウム 2020 で確定した予算・実績について、修正予算から旅費部分が減っていることが報告された。
 - ・SPRUC 全体の予算に関して、シンポジウムと秋の学校の収支が加わっていること、開催予定の BLs ワークショップ関連の予算が組み込まれていることが説明された。
- 4) 田中利用委員長より研究会開催状況について資料 9 により説明が行われた。
 - ・例年、多くの研究会が SPring-8 シンポジウムのサテライトとして開催されるが、本年度は、シンポジウムがオンライン開催になったこと、リモート対応への遅れ等のため、開催数が少ない状況にある (開催済 5 件、開催予定 5 件)。ただし、新型コロナ禍の状況であってもオンライン会議等で研究会が開催され、議論が進んでいる。
 - ・JASRI が SPRUC 各研究会との共催として開催される SPring-8/SACLA 先端利用セミナーをカウントすると、半数の研究会が研究会を開催している。

懇談事項

- 1) 木村会長より核共鳴散乱研究会からの要望書に関する説明が行われた。
 - ・昨年の BLs ワークショップで取り上げられた核共鳴散乱、非弾性 X 線散乱の BL 再編に関連して、核共鳴散乱研究会から 2020 年 1 月にビームラインの高度化に

- 関する要望書が提出された。
- ・ 要望書に対する施設からの回答 (2020 年 5 月) の中で、「核共鳴散乱と非弾性 X 線散乱でビームタイムがブロック化されるのではないかと懸念される文言があったため、核共鳴散乱研究会から再度の要望書が提出された。
 - ・ この要望書に対して、先日、JASRI と核共鳴散乱研究会代表との間で懇談が行われた。基本的に課題の評点に基づいたビームタイムの配分を行い、両実験手法で BT を固定化することはないという回答があり、両者間の同意を得た。
 - ・ 木村会長による上記説明に対して、JASRI 木下利用推進部長より以下の補足があった。
 - ✓ 再編後に相乗りになる核共鳴散乱と非弾性散乱のビームタイムに関するひとつの案として、核共鳴散乱と非弾性 X 線散乱のビームタイムをそれぞれ固定のビームタイム配分枠を設けるといった議論もあったが、現段階では上記の様な方法は考えてはいない。
 - ✓ 現在、課題審査分科会の再編を行っており、核共鳴散乱、コンプトン散乱、非弾性 X 線散乱は、同じ分科で審査・採点されてビームタイムが配分されると話し合われている。
 - ✓ 手法毎にビームタイムの割合を決めて配分して欲しいという希望があれば、研究会等で取りまとめて JASRI および PRC 等に要望を提出して欲しい。
 - ✓ 以上の回答を行うことで、核共鳴散乱研究会の代表からは、研究会から提出した要望書に対する回答になっているとの返答があった。
- 2) 木村会長より、現状を考慮すると次年度 SPring-8 シンポジウムはオンライン実施になるであろうとの意見があった。
- ・ 前回は初めてのオンライン開催という事情もあり 1 日開催 (話題もポスト・コロナに特化) であったが、今回は研究そのものの話題も含めて 2 日で開催したい。
- 3) 木村会長より分野融合型研究グループと Science Promotion Board (SPB) の現状に関する説明が行われた。
- ・ SPB は水木前会長の在任時に計画をされ設置をされており、現在も水木前会長にご尽力いただいている。現在、JASRI との協議の中で、SPB は SPRUC 外に設置し、SPRUC は SPB に協力する形になることが検討されている。SPRUC としても何らかの形で協力することは必要であると認識しており、これからも情報収集を続けていく。
 - ・ 分野融合型研究グループについては少し検討が遅れている。体制も落ち着いてきたので、今後検討をしていきたいと考えている。

連絡事項

- 1) 松下幹事より今後のスケジュール (資料 10) の確認が行われた。

以 上